

13. 総括—近世秩序の変容と崩壊

2025.12.18.大橋 幸泰

はじめに

「日本近世史」8-12の講義／どちらかといえば近世中期～後期、近世秩序の変容と崩壊について扱った
→本日は、おもに後半の講義を振り返って、日本の近世秩序から近代秩序の萌芽への過程を議論する

1. 近世における近代秩序の萌芽

近世期のどこにどんな近代秩序の萌芽があるか？

手がかり／近世という時代の特徴は民間社会の形成
→幕藩権力が構築した既存秩序を変容させていく

2. 近世における「惣無事」

近世期、なぜ「惣無事」を維持できたか？／なぜ、それが崩れたか？

手がかり／仁政という政治常識と民衆の主体的被治者意識
→幕藩体制の構造上の矛盾が近世人の常識を変容させていく

3. 中世・近世・近代の比較

中世／分権的体制による自力救済の世界

近世／集権的体制のもとで「惣無事」の実現

近代／国民国家の成立

→それぞれの時代に生きた人々には、どのような幸せがあり、どのような生きづらさがあったか？

【付記】

- ・明日までに、Hoppiiieにて講義記録の提出を求める。／今回は本時での議論をふまえて、講義全体の感想を書いてください。
- ・小レポート提出期限 12月17日：小レポートを提出した者が試験(2026年1月8日)の受験資格を有する。